

「なごやっ子教育推進計画（仮称）」（案）に対する
市民意見及び本市教育委員会の考え方

「なごやっ子教育推進計画（仮称）」（案）に対して多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見の概要及び本市教育委員会の考え方を公表します。

なお、ご意見を要約し、内容ごとにまとめさせていただきましたのでご了承ください

また、いただきましたご意見を参考に計画の修正をおこない、「なごやっ子教育推進計画」として策定・公表いたします。

今後も、学校・家庭・地域が連携し「夢に向かって人生をきり拓く」なごやっ子の育成を目指してまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成 19 年 4 月
名古屋市教育委員会

お問い合わせ先
名古屋市教育委員会事務局学校教育部教育企画室
電 話 052-972-3240
FAX 052-972-4177
メール a9723240@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

パブリックコメントの概要

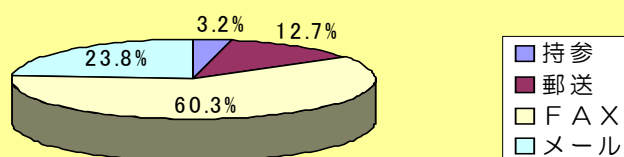
- ご意見募集期間
平成 19 年 1 月 15 日から平成 19 年 2 月 20 日まで

- ご意見数
63 人 126 件

- 提出方法内訳

持 参	2 人
郵 送	8 人
F A X	38 人
メール	15 人
計	63 人

提出方法内訳



- ご意見の内訳

計画全体に関すること	15 件
郷土について学び、国際人としての素養をはぐくみます	3 件
基礎基本を身に付け、自ら学ぶ力をはぐくみます	19 件
人権を大切にし、思いやりの心や、コミュニケーション能力をはぐくみます	3 件
社会のルールを守り、社会の一員としての自覚をはぐくみます	2 件
望ましい生活習慣を身に付けるとともに、生涯にわたって健康に過ごすための心身をはぐくみます	7 件
保護者や地域とともに歩む、安心して安全な学校づくりを進めます	9 件
教師力の一層の向上を図ります	28 件
家庭の教育力の向上を図ります	27 件
地域の教育力の向上を図ります	
多文化共生への教育を推進します	1 件
特別支援教育の充実を図ります	9 件
名古屋独自の教育システムの整備を図ります	1 件
その他	2 件

○ 市民意見及び本市教育委員会の考え方

(1) 計画全体に関すること<15件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生のみを対象とした計画となっているが、幼児期からの教育が大切であるので、なごやっ子教育推進計画に幼児を組み入れてほしい。 	<p>幼児教育の重要性については認識しておりますが、既に「なごや子ども・子育てわくわくプラン」の中で記載していること等もあり、本計画の対象は義務教育段階の子どもたちを対象としていますのでご理解ください。</p>
2	1	<ul style="list-style-type: none"> 非常に細かいことまで多くの施策が記載されているが、こんなことまで学校が税金を使って行うべきか疑問である。もっと家庭や親に任せるべきである。 	<p>あらゆることを学校で行うことを目的とするものではなく、教育の原点は家庭にあるとの認識の下、家庭の役割を十分果たしていただけるよう教育委員会としても支援していこうという趣旨のもので、ご理解ください。</p>
3	6	<ul style="list-style-type: none"> 学校での教育活動を教育委員会が細部まで決めてしまうと、学校活動すべてが画一化されてしまうのではないか。 学校は計画された多くの事業をこなすだけで精一杯ではないか。 この計画は指針にとどめ、学校が地域や子どもの実態にあわせて実施できるようにするべきではないか。 計画全体のイメージ図を一つのサンプルとして校長の判断材料として示せばよいのではないか 	<p>この計画は「夢に向かって人生をきり拓く」なごやっ子の育成を目指し、今後4年間における方向性を明らかにするものです。この計画の推進にあたっては、各々の学校の特徴や地域の事情等を十分ふまえていく必要があると考えています。</p>
4	1	<ul style="list-style-type: none"> 教育問題への関心が高まっている今こそチャンスと捉え、理想と信念を持って職務に当たってほしい。 	<p>市民の皆様の期待に応えられるよう公教育の充実に努めていきたいと思っております。</p>
5	1	<ul style="list-style-type: none"> 様々な施策を実施しても、全ての子どもや親が参加できるわけではないので、色々な 	<p>施策立案にあたり、参加しやすい施策を工夫するとともに、参加できなかった人へも配慮して実施する</p>

		<p>施策に参加しない、できない人達へのフォローが重要である。</p>	<p>ように努めています。例えば、昼間働いていて生涯学習センターの講座・講演会に参加できない人のために、19年度から「親学推進協力企業制度」を実施します。この制度は、制度の趣旨に賛同する市内の企業（団体）に協力企業として登録していただき、企業が主体となって保護者である従業員の方々に「親学」について学習したり実践したりする機会を提供するものであり、ご指摘の趣旨に沿った事業であると考えます。なお、その趣旨がより明確になるよう記載を修正しました。</p>
6	1	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生にとって学校は一日の大半を過ごす場であるのに、子どもが学校から受ける影響が弱くなっているように感じるので、子どもに学校というものの存在感を示す必要があると思う。 	<p>学校・家庭・地域がそれぞれの役割を再度認識し、連携を深めていくことが大切です。そのためにも各学校からの情報発信をさらに進め、家庭・地域への教育活動に対する理解・信頼を深めていきます。</p>
7	2	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある策が立案展開されても、広報が不十分で一般に知られていないのでPR活動を重視すべきである。 TV等多くの人が見て影響力の強い媒体を使った広報宣伝活動を強力に実施すべきである。 	<p>広報なごや、ホームページ等を活用したPRを行っているところですが、PR不足とのご指摘もふまえ、今後も広報の一層の充実に努めていきたいと思えます。</p> <p>なお、18年度から、名古屋市ホームページに「教育つうしん」を立ち上げ、教育委員会の様々な活動を紹介する試みも行っておりますので、ご覧いただければ幸いです。</p>
8	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域の連携だけではなく、行政機関同士の連携も行うことによって相乗効果が生まれる。 	<p>行政機関同士の連携も意識しつつ、教育行政の推進に努めていきたいと思えます。</p>
9	1	<ul style="list-style-type: none"> 教師と生徒、教師と保護者の関係において「尊敬」する気持ちが欠けている。時と場合にもよるがやはり「けじめ」は必要である。 	<p>先生と児童生徒、保護者は信頼関係の上に立ち、教師が「いけないことはいけない」と毅然とした指導を行う事が必要ですので、今後も学校に対して働きかけていきたいと思えます。</p>

(2) 郷土について学び、国際人としての素養をはぐくみます< 3件 >

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
10	1	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋は現状でも充分郷土愛は育っており、むしろ排他性を感じている。他の地域に比べて、ローカルに動くことはできるかもしれないが、グローバルに考えるという意識があまり育っていないように感じる。 	<p>グローバルに考えるときの、軸となるのは、自分の住んでいる地域に対する理解や誇りが原点になると考えています。そうした視点に立って、国際社会に開かれた名古屋というような郷土学習についても検討していきたいと考えています。</p>
11	1	<ul style="list-style-type: none"> 世界でも自らの国や故郷にまつわる神話や祖先を大事にしている人々が尊敬され信頼されていることを、中立的に見据えてほしい。 	<p>多くの学校では地域の昔話や地場産業について地域の皆様と関わりながら調べる取り組みを行っていますのでご理解ください。</p>
12	1	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋に住んでいるからといって、名古屋の子どもたちが名古屋に対する思いが強いとは思えないので、その土地について興味関心が持てるような取り組みをしていくことはよいことだ。 	<p>名古屋に住んでいる子どもたちに、郷土学習を進めることは、その土地についての興味関心を高めるうえで重要であるばかりでなく、自分や家族を大切にし、自分の「根っこ」をしっかりとほり、軸をぶらすことなく国際社会で活躍できる人材育成につながるものだと考えています。</p>

(3) 基礎基本を身に付け、自ら学ぶ力をはぐくみます< 19件 >

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
13	4	<ul style="list-style-type: none"> 30人学級を小学校1・2年生だけでなく、小学校全学年や中学校1年生まで拡大してほしい。 欧米並みの20人学級を編制し、先生と生徒のコミュニケーションや手厚いケアを実現してほしい。 	<p>本市の30人学級は、学校生活の入門期である小学校1年生で児童一人ひとりにきめ細かな指導を行い、学校生活への適応を図るために実施しています。小学校2年生では、1年生で実施した成果を深化・発展させるとともに、継続して学校生活への適応を図るために実施するものです。</p> <p>一方、子どもたちの成長のためには、ある程度の集団の中で切磋琢磨していくことも大切ですので、小学</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 学校の負担増や教師不足、子どもの社会性の育成といった問題があるので、少人数教育の行き過ぎにも留意してほ 	

		<p>しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 30人学級の実施について、非常勤講師が配置されるのでは、学校の負担が増えてしまう。子どもと触れ合う時間の持てる常勤講師で対応して欲しい。 	<p>校3年生以上及び中学校については、30人学級の実施ではなく、学習の場面ごとに必要に応じて、2つの学級を3つの集団に分けるなど、少ない人数の学習集団を作って学習を進める少人数指導や、1つの学級を2人の教師で指導をするチームティーチングを行うなど、基礎的な内容の徹底を図っています。</p> <p>なお、小学校1・2年生での30人学級の全校実施に当たり、担任不足によって実施ができなくなる学校については市費の常勤講師を配置して実施します。</p>
14	6	<ul style="list-style-type: none"> 短縮授業の廃止、小学校3年生までに習う漢字の数を増やす、英語の学習時間を増やす、補習時間の実施などの施策を実行してほしい。 正確な計算力、漢字力、語彙力、実験等から科学の興味を養う、地理学習の強化、英会話の充実といった基本的な知識の強化が必要であると思う。 	<p>学習指導要領に示されている内容を基本として、各学校では基礎的・基本的な学習だけでなく、課題学習、補充的学習や発展的学習など、子どもの多様な学習が実施できるように教育課程を編成しています。</p> <p>また、本市、学校教育の努力目標では一人ひとりの良さや可能性を引き出すことの大切さを強調しています。各学校でも、子どもたちの個性や感性を育てる教育活動を進めることができるように努力しているところですのでご理解ください。</p>
15	3	<ul style="list-style-type: none"> 理解度などでグループ分けをし、個別の特別プログラムを行ったほうがよいのではないか。 少人数学級よりも、個人の理解度別にクラス分けを行ったほうがよいのではないか。 	<p>本市では、基礎・基本の定着を図り、個に応じたきめ細かい指導を行うため、全ての小中学校において少人数指導を実施しています。</p> <p>各学校では、児童生徒の実態に応じて実施学年や教科を決め、また、一つの学級を複数の教師で指導するチームティーチング指導や、学級を課題別や習熟度別の学習集団に分ける指導など、様々な形態での指導を行っています。</p>

16	2	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育では、基礎教育を徹底するレベルで充分である。日本が今後生き抜いていくために、公的な人材育成の第一歩である義務教育の責任は大きい。 	<p>公立の小中学校においては、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、自分らしさを発揮して粘り強く課題を解決しようとする力の育成に努めています。</p> <p>また、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた指導のため、小学校1・2年生の30人学級や、少人数指導の推進などに取り組んでいます。</p> <p>なお、義務教育の責任の大きさについては、ご指摘のとおりと考えています。</p>
17	1	<ul style="list-style-type: none"> 学術関係の職業であるが、子どもの体験活動が大変重要であると感じている。協力を惜しまないので、行政の支援も充実させてほしい。 	<p>高い識見や技術をお持ちの方から学ぶことによって、生きて働く力を身に付けさせることは重要なことと考え、その道の達人事業などを推進しています。今後とも皆様のご協力をお願いします。</p>
18	1	<ul style="list-style-type: none"> 絶対評価への転換により、実力を正しく反映した評価になっているので、現場がどのように変化したのかについての追跡調査が必要である。 	<p>各学校では、学習内容や関心・態度の定着度を一定の評価規準を設けて評価し、子どもの指導に生かしています。また、指導と評価を一体としてとらえ、子どもの学習に取り組む姿勢をはじめとした変容の様子についてとらえることが必要であると考えていますので、ご理解ください。</p>

(4) 人権を大切にし、思いやりの心や、コミュニケーション能力をはぐくみます
 < 3件 >

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
19	1	<ul style="list-style-type: none"> 育児の経験の不足から頭でっかちの育児不安者が増加しているので、「人権を大切にし、思いやりの心や、コミュニケーション能力を育む」の施策の中に、「乳幼児保育の体験」をいれてはどうか。 	<p>「乳幼児保育の体験」は大切であると考えています。18年度では、88の小学校において学区内の保育園や幼稚園を訪問して、一緒に遊んだりプレゼントを交換したりしました。中学校では92の学校が幼稚園などで職場訪問や職場体験をしました。</p>

20	1	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の育成は重要であるので、コミュニケーション育成事例集を配布するだけでなく、全教員への研修等も行っていきたい。 	<p>経験年数に応じて受講する必須の研修や応募によって受講する研修等で、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた研修を行っています。今後も、ご指摘のとおり事例集を活用するなど研修内容の充実に努めていきますので、計画にもその旨記載しました。</p>
21	1	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題の克服に向けて、今のいじめが携帯やパソコンによって昔のいじめと異なったものになったことを社会全体が認識すべきである。出席停止や居残りによりいじめの解決につながるとは思えない。 	<p>ご指摘のとおり、携帯電話のメールやインターネットによる中傷のいじめは今後増えることが考えられます。</p> <p>学校では家庭教育セミナー等を通して、携帯電話等の危険性を訴え、保護者への啓発を進めていきます。</p> <p>また、出席停止制度は、軽々に実施すべきではないと考えています。</p>

(5) 社会のルールを守り、社会の一員としての自覚をはぐくみます<2件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
22	1	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の充実が一番大切なので、身に付ける資質は「社会のルールを守り、社会の一員としての自覚を備えます」を1番目にしてほしい。社会のルールを軽視する若者だけが悪いのではなく、親が受けてきた教育内容に問題があったことを考えるべきである。マナーの欠如は深刻な問題であり、日本のよき伝統が息づいているうちに立て直すべきである。 	<p>学校での道徳教育は、学校教育全体で行うものであるという考えで行っています。したがって、道徳の時間だけでなく、例えば、校外での体験学習を計画したり、外部講師を招いたりする中で、社会参加に必要な礼儀、マナーを身に付けさせ、自らの生き方を考える機会を設けるよう取り組んでいます。保護者や地域の社会人等、大人の力を結集することを目指したいと考えています。</p> <p>さらに、子どもの健やかな成長を図るため、家族や親のあるべき姿、親の役割や子育ての責務を学ぶことを「親学」と名付け、「親学ノススメ」を展開しています。その中ではルールや約束を守ることや、そのためのしつけの大切さについても取り上げています。</p>

			<p>このように道徳教育の重要性は十分認識していますが、計画に掲げた5つの資質は等しく必要なものと捉えており、計画の構成上このような形としていますので、ご理解ください。</p>
23	1	<ul style="list-style-type: none"> 子どものモラルについて、学校・地域・家庭の3者間で求めていることが違うので、3者が共通の認識を持つことにより、ぶれない教育が実現すると思う。3者のベクトルが絶えず一致するような場を定期的に持てる工夫をしてほしい。 	<p>現在も、保護者の方への学校公開日を積極的に設けていますが、さらに、学校が、保護者や地域の方たちに向けて、教育方針やモラル教育についての考え方を、今まで以上に発信していく必要があると考えています。</p>

(6) 望ましい生活習慣を身に付けるとともに、生涯にわたって健康に過ごすための心身をはぐくみます<7件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
24	2	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力低下が心配なので、知・徳・体のうち体を強調して欲しい。 子どもの体力の低下は大きな問題であり、規則正しい生活習慣や、幼児期からの運動習慣を身につけることが必要である。 	<p>市内全小中学校から、「特色ある体力づくり推進校(体力アップ推進校)」を募り、朝の運動集会の奨励や体育授業での体力づくりの推進に努めていきます。また、望ましい生活習慣の育成のために、早寝・早起きの定着や朝食欠食率の低下を目指して、リーフレットや親子でつくる生活習慣カードを活用して保健指導等の充実に努めていきます。</p>
25	1	<ul style="list-style-type: none"> 部活動外部指導者の派遣はよいことであるが、人材の選び方が重要である。 	<p>部活動外部指導者は、指導しようとする種目に関して専門的技術能力を有する方のうち、適格と認められる方を、校長が選任しています。</p>
26	1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力向上や居場所作り、交通ルールや自転車利用マナーの教育に効果のあるマウンテンバイクのコースを整備してほしい。 	<p>新しい施設又は既存のスポーツ施設の改修による設置につきましては、市の財政状況、施設の老朽化等をふまえつつ、総合的に判断し計画していきたいと考えており、現段階では設置困難な状況ですのでご理解ください。</p>

27	1	<ul style="list-style-type: none"> 小学校給食で、食物アレルギーへの対応を図ってほしい。対応できないなら、給食費を返してほしい。教職員の意識や取り組みによって対応が異なるので、全市でアレルギー給食への対応を統一してほしい。 	<p>平成19年度から、統一的な食物アレルギー対応給食を実施します。ただし、除去食等は、対応可能な一部献立に限られます。なお、代替食は実施しません。</p>
28	1	<ul style="list-style-type: none"> 中津川野外教育センターで、アレルゲンの含まれない食材を使用するなど食物アレルギーへの対応を図ってほしい。 	<p>野外教育の実施前に、学校から「アレルギー対応献立調査」を野外教育センターへ送り、代替可能な献立については変更していますのでご理解ください。 ※卵、乳製品、ピーナッツなどの除去献立を用意しています。</p>
29	1	<ul style="list-style-type: none"> 食は命の基本であるので、学校への栄養士の配置、給食の自校調理の継続といった施策を実施してほしい。 	<p>「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」に則り、栄養士の免許を所有している学校栄養職員を学校に配置しています。 小学校における給食については、現在、全小学校で自校調理を実施しています。</p>

(7) 保護者や地域とともに歩む、安心して安全な学校づくりを進めます<9件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
30	1	<ul style="list-style-type: none"> 40人程度のクラスの方が、小学校を統廃合できる余地が広がるのではないか。 	<p>全学年1学級ずつの単学級校には、子どもたちの交友関係や切磋琢磨の機会に限られるなど、教育上の課題があるため、地域との合意形成をはかりながら、統合などの対策を進めていきます。(本市では、小学校1・2年生は30人学級、3年生以上は40人学級です。)</p>
31	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の結果を公表してほしい。 	<p>今後、結果公表を推進する方向で考えており、現在、結果公表の在り方について検討をしています。</p>
32	1	<ul style="list-style-type: none"> 夏場の教育環境改善のために、普通教室の冷房化を進めてほしい。 	<p>現在、騒音などで窓を開けられない状況にある学校について空調設備を設置しておりますが、その他の</p>

			<p>学校への設置については全市的に考える必要があります。</p> <p>空調設備の設置には子どもの運動不足や体温調節機能低下への心配、設備運転による環境に与える影響など様々な意見があるほか、本市の厳しい財政状況を考えますと、現時点では、全校の普通教室に設置できる状況にありませんのでご理解ください。</p>
33	1	<ul style="list-style-type: none"> 環境対策や地域交流のために、校庭の芝生化を進めてほしい。 	<p>校庭の芝生化には、環境面だけでなく子どもの活動への効果も期待できますが、子どもの遊び・運動に耐えうるように、日常的にきめ細やかな芝生の手入れを行っていく必要があります。そのため、芝生化が可能な場所やご指摘のように地域の皆さんで芝生の維持管理をしていく方法などを検討していきます。</p>
34	1	<ul style="list-style-type: none"> 「電子黒板・指導用コンピュータ等の整備」が本当に必要か疑問である。 	<p>電子黒板は、全国的に導入が進んでいるものです。すでに利用している学校では、コンピュータ利用にふさわしい単元で分かりやすく楽しい授業が行われています。必要な時に利用できる可動式のセットを各校に整備していく必要があると考えています。</p>
35	1	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーの観点から、肢体不自由児が在籍するなど必要性の高い小中学校には、エレベーターを設置すべきである。 	<p>新築や改築の際にはエレベーターを設置していきます。既存の校舎につきましては、経費の問題も含め導入の方法を検討していきます。</p>
36	1	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリート造りの校舎は無機質で冷たく感じ、子どもの情緒に悪影響を与えていると思うので、温かみのある木材を使った学校整備を実施してほしい。 	<p>木材にはご指摘のような人に心地よい感覚を与える性質を持っており、木材を使用することは環境サイクルにも寄与します。今後の校舎建設の際には木材を効果的に活用し、子どもたちに木の温もりを感じられるような整備を進めていきたいと考えています。</p>

37	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員制度が形だけになっているのではないか。もっと開かれた制度にすべきである。 	<p>家庭や地域との連携を深め、教育活動の充実を図るとともに、地域に開かれた学校づくりを推進できるよう、制度の活用を図っていきたいと考えています。</p>
38	1	<ul style="list-style-type: none"> 親のボランティア受け入れや参観日以外の授業見学の実施など、オープンな学校を目指してほしい。 	<p>ボランティアの方にご協力いただいたり、学校開放日を設定したりして、開かれた学校づくりを進めてきているところですが、今後も学校の様子に関する情報提供に努めていきたいと考えています。</p>

(8) 教師力の一層の向上を図ります<28件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
39	2	<ul style="list-style-type: none"> プランに記載された全ての施策を実施すると教員がますます多忙になってしまう。教員の事務的な仕事を最小限にし、子どもとのふれ合いをもっと大切にしてほしい。 社会が学校に求める役割が増大している現状に対応するためにも、学校組織を再編してはどうか。 	<p>ご指摘のように今日の学校は、保護者・地域から多くの要望、期待を受けています。学校・家庭・地域がそれぞれの役割を再確認したうえで、連携して子どもを育てていくことが大切であり、そのための施策を進めていきたいと考えています。</p> <p>また、教員の多忙化解消のためにも、校務分掌や会議の在り方の見直し等を一層進める必要があると考えています。</p>
40	8	<ul style="list-style-type: none"> 心がタフで少しのことに動じない人を採用してほしい。 新教員の質が落ち始めているので、初任者教育の充実等により質の高い教員を養成する必要がある。 教員の意識改革と質の向上が必要である。 	<p>知・徳・体のバランスのとれた人材が採用できるよう、「人物重視」の選考を一層進めていくとともに、教員としての使命感や技能を高めるため新規採用者への研修をはじめとした各種研修の充実を図っていきたいと考えています。</p>
41	3	<ul style="list-style-type: none"> 「なごや教師養成塾の開設」について、採用前、採用後どちらの教員が対象なのかわからない上、目的が明確ではなく、必要性に疑問を感じる。 優秀な人材の確保とあるが、頭脳が優秀であることより 	<p>「なごや教師養成塾」は、教育に対する情熱や使命感、子どもの心を理解し子どもの心をつかむ力や組織の一員として協働する力など、教師としての必要な資質を高め、なごやの教師を目指す人材の育成と確保を図るために、本市教員の採用試</p>

		も、子どもが好きで真正面から向き合える人材が必要である。	験を受験する方を対象に開設しようとするものです。なお、ご指摘を踏まえその趣旨がより分かるよう記載を修正しました。
4 2	4	<ul style="list-style-type: none"> 「教員をサポートする体制」の具体的な内容が不明である。 きめ細やかな指導を行うためにも、教員がゆとりを持つような制度としてほしい。 授業を行わない人間を配置しても意味がないのではないか 先生が十分に生徒と触れ合えるような学校になるよう、放課後もいる先生を増やすとよい。 	教員が子どもとじっくり向き合える時間の確保を図るため、ご指摘等を踏まえて「教員」という限られた表現ではなく、「学校をサポートする体制」という表現に修正するとともに、そのサポート体制の整備に努めていきたいと考えています。
4 3	1	<ul style="list-style-type: none"> 表彰で教員の意欲が向上するか疑問だ。 	優れた成果等をあげた教員を表彰することは、教員の意欲を高める上で有意義なものと考えていますのでご理解ください。
4 4	3	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価システムで組織の活性化に本当につながるか疑問である。 誰が何を基準に評価するのか。入試の結果や親の評価を基に評価しないでほしい。 教員評価の実施に当たっては担当教員の負担を増やしたり、マイナス評価をしないようにしてほしい。 	<p>本市の教員評価システムは、教員の自己目標の達成状況について教員自身による自己評価を基に評価者である校長が評価し、各教員の次年度の取り組みの改善につなげようとするものです。また、自己評価の際には、児童生徒、保護者、他の教職員の意見も参考にしながら、できるだけ客観性を高めるようにしています。</p> <p>なお、2年間の試行を踏まえ、自己申告・評価シートの簡素化等を図ったところです。今後も、教員評価システムの改善に努めていきたいと考えています。</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価に保護者の評価も加えてほしい。 	
4 5	3	<ul style="list-style-type: none"> 退職者を活用し、児童生徒の精神面のケアなど現職員のサポートを行ったらどうか。 シニア世代を活用して、20～30人学級とすることで 	<p>学校評議員制の充実などにより地域との連携を深め、地域の人材の活用に努めています。</p> <p>教職員の年齢構成は、学校運営において重要な要素です。そうした意</p>

		<p>教員の多忙を解消し指導に専念できる環境にできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校は教師と子どもたちだけの閉鎖的な空間ではなく地域の方や親も教室に入ってもらい色々な人間が入り混じり成長していく環境づくりが必要ではないか。 	<p>味からも、再任用教員は、児童生徒の指導以外に、その経験を生かした新規採用教員をはじめ若手教員の指導者や相談役としての役割も期待されるため、その配置に当たっては、新規採用者の配置や年齢構成を考慮していきたいと思います。</p> <p>なお、少人数学級については、個々の児童生徒の実態に即した指導をより可能とし、学習・生活面で成果をあげることをねらいとしていますのでご理解ください。</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> 定年退職者の再任用が増えていくと、体力の衰えた教員が増えてしまい事故等に対応できなくなるのではないかと不安である。 	
46	2	<ul style="list-style-type: none"> 指導力不足教員の認定を、外部機関が判定する形にしてはどうか。 	<p>指導力向上を要する教員については、外部委員を含めた会議において、判定を行っているところで、ご理解ください。</p>

(9) 家庭の教育力の向上を図ります。地域の教育力の向上を図ります
 < 27件 >

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
47	8	<ul style="list-style-type: none"> 計画にあるように、教育の原点は家庭にあるが、学校教育に依存している面が多すぎるので、親に対して気軽に物が言え、親が素直に受け止めてくれる社会になればと思う。 教育とは親・学校・地域社会がチームとして一体運営すべきであるが、最近は、学校・地域社会の部分ばかり問題視されている。親や家庭に対する指導や教育に力を入れて取り組んでほしい。 家庭の教育力の低下が著しいと思う。 学校の役割、親の役割を認識し、親の学校に対する意識改革が必要である。 	<p>子どもたちの健やかな成長を図るため、親のあるべき姿や役割、子育ての責務などについて学ぶことを「親学」と名づけて「親学ノススメ」を展開しています。</p> <p>学習機会としては、PTAと連携した家庭教育セミナーや各区の生涯学習センターでの親学関連講座などを実施しています。</p> <p>平成19年度からは、仕事などの都合で家庭教育に関する事業に参加しにくい保護者が親学にふれる機会として、企業・団体と連携する「親学推進協力企業制度」の実施を計画しています。</p>

48	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋は都会の中では地域社会がまだ残っている地域なので、「地域の子どもは地域で育てる」を徹底させるとよいと思う。 ・ トワイライトスクール以外でも地域のつながりが持てるように改善してほしい。 ・ 学校・地域・家庭が共通認識の上にとって初めて計画の施策が生きてくると思うが、地域によっては十分な協力が得られない所もあると思うので、みんなで協力してできるようにすることが大切である。 	<p>子どもたちの健全な育成のために、地域の団体を中心として学校・家庭・地域が一体となった事業を行うことは大切であり、そういった趣旨で開催されるイベント等を支援する「子どもはつらつ基金」事業を実施しています。</p> <p>また、平成19年度からは、学校・家庭・地域のかげ橋としての役割を担っているPTAが主体となって実施する「学校まつり」あるいは「地域まつり」などを支援する「PTA地域イベント」事業を計画しています。</p>
49	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書は子どもの豊かな人間形成に有用なので、一層奨励してほしい。 ・ 読書習慣を身につけるため、毎朝10分の読書時間を設けてほしい。 ・ 学校やコミセン、図書館などに子どもに親しみやすくおもしろい本をたくさんそろえてほしい。 	<p>子どもが読書に親しみ、読書習慣を身につけることができるよう乳幼児期から読書に親しむ機会を充実し、読書活動の重要性や意義、家庭での読書の大切さについて普及啓発を図ります。また学校においても朝の読書や読み聞かせなどを充実します。</p> <p>蔵書の充実についても大切であると考えており、子ども向け図書の充実に賛同する市民が気軽に寄附ができるよう「子ども読書基金」の創設を予定しています。</p> <p>読書へのきっかけとなるよう、子どもに読んでもらいたい本を、子ども自身に選んでもらう「子どもが選ぶ100冊キャンペーン」の実施や、小学生に図書館の業務を体験してもらい、図書館を身近に感じてもらえるようにする「子ども図書館大使」の任命などを実施します。</p>
50	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児がトワイライトスクールに安心して参加し、様々 	<p>障害児がトワイライトスクールへ参加し、交流する場合につきまし</p>

		<p>な子どもたちと交流ができるよう体制を整備してほしい。</p>	<p>ては、保護者とも相談しながら、全体の運営状況を考慮し、必要であればスタッフを増員するなどの方法で対応をしています。</p> <p>トワイライトスクールの大きな特色となっています体験活動を重視する姿勢はそのままに、加えて学習習慣の定着や学習意欲の向上を目的として「学びの活動」を実施します。</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> 国が提起した放課後子どもプランでは学習の充実を図っているが、トワイライトスクールが体験重視となるのか基礎基本を重視するのか位置づけを明確にしてほしい。 	
5 1	1	<ul style="list-style-type: none"> P T A活動が一部の人たち任せになっていて発展性がないので、広く浅くてもよいので全ての人に関われるようにするとよい。 	<p>P T A活動に多くの会員が参加し、活動が活性化されることは、親の子育てに対する意識の高まりにもつながるものであり、大切であると考えています。</p> <p>教育委員会では、各P T Aの役員を対象にした指導者研究集会の実施やP T A活動に関する手引書の配布などを通して、多くの会員が参加しやすいP T A活動になるよう働きかけを行っています。</p>
5 2	3	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心を育てる施策の「家庭の日」事業を見直し、より利用価値の高いものに替えたほうがよいのではないか 家庭の日を実際にどうやって進めていくのかイメージがわからない。 	<p>家庭の大切さや家庭の役割についてあらためて考える機会として、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、リーフレットの配布等を通じて啓発に努めています。</p> <p>また、親子のふれあいを深める機会としての「家庭の日」ファミリー優待事業や子どもたちが家庭の大切さに気づき、家庭への感謝の気持ちを育む機会として、ポスターや作文を募集する事業を行っています。</p>
5 3	1	<ul style="list-style-type: none"> 「おやじの会」を運営しているので、計画の参考にしてほしい。 	<p>「おやじの会」の結成及び活動を支援することは、父親をはじめとする若い世代の男性が地域社会で活躍することにもつながり、地域の教育力の向上にもつながるものと考えています。</p> <p>計画の推進にあたっては、既存の「おやじの会」の結成過程や活動状況、存続のあり方も参考にさせてい</p>

			ただきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。
54	1	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化が進んだ現代、「地域の教育力へ高齢者を活用」を位置付けることにより、教育でも学ぶものがあると思うし、高齢者の生きがいにもつながっていくのではないか 	<p>トワイライトスクールでは、地域の方に地域協力員として運営に参加していただいています。</p> <p>また、体験活動講師として茶道、華道、囲碁・将棋、毛筆など、様々なことを子どもたちに指導していただいています。いずれも地域の高齢者の豊富な知識や経験を活かせるよう努めています。</p>

(10) 多文化共生への教育を推進します<1件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
55	1	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生の施策として、子ども達に異文化や英語以外の外国語に触れる機会を増やしてほしい。 	世界に羽ばたく人材を育成するためには自分達とは異なる言語や文化を認め、共に生きていく態度の育成が大切と考えています。

(11) 特別支援教育の充実を図ります<9件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
56	4	<ul style="list-style-type: none"> 新たな障害児学級の設置、教員の定数、配置基準を充実するなど、今後も特別支援教育の一層の充実を図ってほしい。 特別支援教育に対して、教員の増員や学校環境の整備予算の増額をしてほしい。 学習障害のある子どもたちには20人学級を推進してほしい。 	<p>特別支援学級の設置については、今後も県の設置基準に沿って新設・増設を進めていきたいと思えます。</p> <p>教員の定数等の改善についても、特別支援教育コーディネーターの配置などを国や県に強く要望していきたいと思えます。</p> <p>学習障害のある子どもたちには、特別支援学級や通級指導教室での交流や共同学習を進めていますが、今後も個別指導など、より柔軟な対応ができるような体制作りに努めていきます。</p>

57	2	<ul style="list-style-type: none"> 養護学校の教員への研修を充実させてほしい。 養護学校や障害児学級の運営や授業内容、教員の資質や専門性に問題が多いので、改善を図ってほしい。 	<p>特別支援教育を行うにあたって、様々な障害に適切に対応できる教員を育成するため、全教員を対象とした研修を行うなど、研修の充実に努めるとともに、「障害のある児童生徒のために（支援の手引）」の各学校への周知や、全教員へのリーフレット配付などにより、啓発を図っているところですのでご理解ください。</p>
58	1	<ul style="list-style-type: none"> 過大過密校解消のためにも、高等養護学校の必要性を検討してほしい。 	<p>本市としても、各特別支援学校の設置者である愛知県に対して、増級を要望しているところですのでご理解ください。</p>
59	1	<ul style="list-style-type: none"> 「中学校ブロック単位で障害の種類を考慮した障害児学級の設置」について、肢体不自由の障害児学級も対象にしてほしい。 	<p>肢体不自由の特別支援学級については、学校からの申し出や空き教室の状況等を踏まえ、県に設置を要望していきたいと思います。</p>
60	1	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす機会が不足する重度障害児にも、養護学校で部活動を実施してほしい。学校休業日における子ども対象事業にも、重度障害児が参加できる事業を実施してほしい。 	<p>各特別支援学校では、各々の実情に合わせて実施可能な課外活動を行っています。</p> <p>なお、学校休業日における子ども対象事業については、名古屋市博物館や、美術館などにおいて、障害児の参加が可能な事業がありますので、詳細は各施設へお問い合わせくださるようお願いします。</p>

(12) 名古屋独自の教育システムの整備を図ります<1件>

整理番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
61	1	<ul style="list-style-type: none"> 「本市独自の学級編制基準や教職員定数の調査・検討」について、権限委譲後にすぐ実施できるよう、県とは違う名古屋市にあった制度を実施して欲しい。 	<p>現時点では、いつ、どのような権限と財源が移譲されるのか全体像が明確にされていません。</p> <p>しかしながら、本市の実情に応じた教育施策の一層の推進を可能とするために、権限移譲後の本市独自の学級編制基準や教職員定数の調査・検討を進めていきます。</p>

(13) その他<2件>

整理 番号	件数	主なご意見等	本市教育委員会の考え方
62	1	<ul style="list-style-type: none">教育委員の人選について、教育委員会事務局に都合の良い人選がなされていないか。	教育委員の選任については、法律に基づき、市長が議会の同意を得て任命します。選任にあたっては、職業等に著しい偏りが生じないようにするなど、多様な意見の反映に配慮していますのでご理解ください。
63	1	<ul style="list-style-type: none">親も先生も、今一度教育について見直す時期に来ていると思う。責任の所在を明らかにし、場合によってはペナルティを課すなどの対応も必要である。	学校と家庭は連携を密にし、子どもの成長を促していく必要があると考えています。 また、教育活動が円滑に進むようお互いの責任を明確にしていくことも大切なことであり、その条件整備を図っていきたいと考えています。